

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成28年6月16日(2016.6.16)

【公開番号】特開2014-219493(P2014-219493A)

【公開日】平成26年11月20日(2014.11.20)

【年通号数】公開・登録公報2014-064

【出願番号】特願2013-97390(P2013-97390)

【国際特許分類】

G 0 3 B 21/16 (2006.01)

G 0 3 B 21/00 (2006.01)

G 0 3 B 21/14 (2006.01)

H 0 4 N 5/74 (2006.01)

【F I】

G 0 3 B 21/16

G 0 3 B 21/00 E

G 0 3 B 21/14 A

H 0 4 N 5/74 A

【手続補正書】

【提出日】平成28年4月21日(2016.4.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

本発明の第3の態様のプロジェクターは、光源と、光源からの光により画像を形成する画像形成系と、画像形成系が形成した画像を投写する投写系と投写系の出射端面と光源との間の光路の内外で移動する遮光部材を含み、投写系から出射する光の光量を調整する調光装置と、を備え、遮光部材は、透光部および遮光部を有する第1可動部と、透光部を通った光を遮る第2可動部と、を含み、第1可動部において、光源からの光の光強度が相対的に弱い領域から強い領域に向かうにつれて、透光部の分布が密になっている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

第2可動部31の可動子31aは、第1可動部30の可動子30aと対になっており、第1可動部30の可動子30aと連動して移動する。第2可動部31の可動子31aは、均一化光学系10の光軸10aの方向から見た場合に第1可動部30の可動子30aと重なる位置に配置可能である。第2可動部31の可動子31bは、第1可動部30の可動子30bと対になっており、可動子30bと連動して移動する。可動子31bと可動子30bとの位置関係は、可動子31aと可動子30aとの位置関係と同様である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0063

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 6 3 】

本実施形態において、放熱板 4 4 は、第 2 可動部 3 1 の受光面 4 3 に設けられている。そのため、可動子 3 0 a と可動子 3 1 a の受光面 4 3 と間のスペースを放熱板 4 4 の配置スペースに利用でき、調光装置 4 を小型にできる。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 7 4

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 7 4 】

本変形例における第 2 可動部 3 1 は、第 1 可動部 3 0 と同様に、光源光 L の進行方向に対して凹または凸の波形状に折れ曲がっている。第 2 可動部 3 1 は、光源光 L の入射側に向かって凸の凸部 5 2 と、光源光 L の入射側に向かって凹の凹部 5 3 とを含む。ここでは、光源光 L が遮光部材 2 5 g へ入射してくる方向に直交する方向において、第 2 可動部 3 1 の凸部 5 2 は第 1 可動部 3 0 の凸部 5 0 と位置がほぼ同じであり、第 2 可動部 3 1 の凹部 5 3 は第 1 可動部 3 0 の凹部 5 1 と位置がほぼ同じである。すなわち、第 1 可動部 3 0 の凸部 5 0 に設けられた開口 4 2 を通った光源光 L は、第 2 可動部 3 1 の凸部 5 2 に入射し、第 2 可動部 3 1 の凹部 5 1 に設けられた開口 4 2 を通った光源光 L は、第 2 可動部 3 1 の凹部 5 3 に入射する。